

どうする？ この雪 ～ビデオレターを活用して～

米山尚伸 | 広島市立伴東小学校

1. 雪ってどんなイメージ？

勤務校（広島市）の児童に、雪ということばかり連想されるイメージを書かせると、「やわらかい」「楽しそう」「遊べる（雪合戦、雪だるま）」「すぐ溶ける」「きれい」「ふわふわ」「サラサラ」といった反応が返ってきた。広島市南部の児童にとって、積雪とは「非日常」なのだ。

ここで小2のときに広島から北海道に転居した、小5の児童からのビデオレターの前半部分を見せて、自分達と同じ広島育ちの小5に北海道の生活について簡単に説明してもらった。親近感を感じさせたことで、学習意欲を高めることができた。

2. 除雪車を使って取り除いた後の大量の雪を、北海道の人はどうしているのか？

見出しにある学習問題を立て、児童に答えを予想させた。「熱で溶かす」「捨てる」「再利用する」といった考えが出されたが、実際には児童が思うほど簡単なことではない。除雪作業に関わる人数について、実感を伴って理解させるために、全校児童約250人が映る航空写真を6枚分提示した。



▲除雪に関わる人数

その後教科書や資料集を活用して、調べ学習を行ったところ、冷蔵庫のように活用する・施設の冷房に使う・観光に生かす・流雪溝を使って川に流す・

巨大な施設で溶かす・堆積場に集めて溶けるのを待つといった方法があることがわかった。その中でも堆積場は、札幌市内だけで約80か所もあり、その高さは約20mに達するものもある。小学校の大きさと比較するために、堆積場と校舎の合成写真を提示し、堆積場が、巨大な雪山であることを示した。

北海道民にとって、厄介で思い通りにならない雪を効率よく処分したり、有効に活用したりしていることを理解させることができた。



▲堆積場の大きさ

3. それでも北海道はいいところ！

最後に、ビデオレターの後半で北海道の自然について紹介したところ、以下のような反応があった。

- 北海道は苦勞しかない、雪が降って危ない、と思ったけど、すごく楽しそうだった。
- 雪が降ると除雪作業が必要で不便なこともあるけど、それ以上にいい所がたくさんあると思った。
- 雪をうまく生かしているのですごい。雪のおかげでできることも多いと思った。
- 「自然を生かしている」「共存している」のは、これまでに学習した「低い土地」「あたたかい土地」とも共通しているのだと思った。
- 動画を送ってくれてありがとう。北海道に行って、自分で調べてみたいくなりました。

北海道の人達の苦勞だけでなく、知恵や努力、たくましさなどについて、既習事項と関連付けて理解させることができた。

ビデオレターのおかげで、北海道を身近に感じながら、学習を進めることができた。



▲ビデオレターの一部